

〇〇科学習指導案(〇次案) 〇学年
 単元名『〇〇〇〇〇〇』

平成〇年〇月〇日(〇) 第〇校時
 授業会場 〇年〇組教室
 〇年〇組 男子〇名 女子〇名 計〇名
 指導教官 〇〇 〇〇教諭
 授業者 〇〇 〇〇

1 本時の位置 (全〇時間扱い中の第〇時)

前時： [こんな前時の学習活動] をした。

次時： [こんな次時の学習活動] をする。

2 本時の主眼

(こういう意識や願いの) 子どもたちが [こんな学習問題] の場面で, [こんな学習課題] をして, [こんな全体追究] をすることを通して, [こんなねらい] ができる (わかる)。

3 指導上の留意点

- ・ [その物を用意する理由] ことができるように, [その物] を [これだけ] 用意する。
- ・ [このように安全に学習することができるように (こんな危険がないように)], [このような安全上必要な配慮] をする。

4 本時の展開

階	学習活動	予想される児童の反応	時	指導・援助と評価
	※主語は子ども(主語はつけないが)			※支援は「意図(～ことができるように), 支援の内容(～する)」
導 入	1 (学習問題につながる)〇〇をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ [提示に対して反応している子]。 ・ [今日はこうしたいな(学習問題につながる反応をしている子)]。 	5	○ [「こんな学習問題」に興味をもつ, 「こんな問題点を感じる」] ことができるように, [「こんな提示, こんな場の設定, 前時の振り返り」] をする。
	[こんな学習をこんな観点で] しよう (考えよう, なるう)			
展	2 どうすれば [～学習問題の解決] ができそうか, 追究の見通しを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ [こんなやり方] をすればいいと思う。 ・ [こんなやり方] をしてもいいと思う。 ・ [こんなやり方] をしてもいいと思う。 	10	○ [「こんな学習問題」の解決に向けた見通しをもつ] ことができるように, [どうすれば「この学習問題の解決」] ができそうかを話し合う場を設ける。 「どうすれば～できそうかな? (実際に子どもたちに投げかける言葉)」
	[1 人目の提案] したり, [2 人目の提案] したり, [3 人目の提案] したりすればよさそうだ。			
開	3 [学習課題をもとにしたこんな個人追究] をする。 【個人追究場面】	<ul style="list-style-type: none"> ・ (個人追究をしているときの, それぞれの子の言葉, 思い) ・ ～ ・ (教師の支援を受けての子どもの反応) ・ ～ ・ ～ ・ (教師の支援を受けての子どもの反応) ・ ～ ・ ～ 	20	○ [こんな学習問題解決に向けた追究] をしていくことができるように, [こんな場(時間)] を設ける。 ○ 「こんな自分の追究のよさ」に気付くことができるように, 共感的な言葉がけをしたり, 全体に伝えたりする。
	4 [個人追究をもとにしたこんな全体追究] をする。 【全体追究場面】	<ul style="list-style-type: none"> ・ [わたしはこうだよ (自分の追究の発表)] 。 ・ [ぼくはこうだよ (自分の追究の発表)] 。 ・ [◇さんは～なんだ。たしかに～だね(上の子について反応する子)] ・ [深まりをもたらす「こんな問題点」などに気付いている子の言葉] ・ [「問題になっている点」に答えたり, 自分や友だちのよさに気付いたりしている子] ・ [上の子に共感している子] ・ [自分たちの追究のよさをまとめている子] 	10	○ [「こんな友の追究のよさ」に気付いたり, 「こんな問題点」について考えたりする] ことができるように, [こんな全体追究の場] を設ける。 ○ [「こんな学習活動の深まり」をもたらす] ことができるように, [「こんな問いかけ」] をしたり, 「こんな子の意見」を取り上げたりする。
末	5 本時の追究を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ [本時に追究した満足感を感じている子] ・ [次時に向けて, 「こんな追究」をしていきたいと考えている子] 	5	○ [「本時, こんな追究をしたよさ」に気付いたり, 「次時に向けてこんな願いをもつ」] ことができるように, [こんな振り返りの場] を設ける。

評価： [主眼のねらい] している。
 ～している様子, 発言, 表情, つぶやきから

英語科学習指導案(本時案) 4 学年

単元名 『Welcome to Japan』

平成 30 年 9 月 4 日(火) 第 2 校時
 授業会場 4 年西組教室
 4 年西組 男子 19 名 女子 16 名 計 35 名
 指導教官
 授業者

1 本時の位置 (全 4 時間扱い中の第 1 時)

次時：なし。

2 本時の主眼

普段は会わない文化の違う人とコミュニケーションを取りたいという願いを持った子どもたちが、日本の文化は何があるかという情報を集める場面で、英語を使いながら日本の文化を知ることを通して、日本の行事や食べ物について、どのようなものがあるか認識することができる。

3 指導上の留意点

・授業中に使う日本語が少なくなるようにする。

4 本時の展開

階	学習活動	予想される児童の反応	欄	指導・援助と評価
導 入	1 日本の文化を知らない人と関わる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化ってなんだろう。 ・すし！！ ・季節も日本だけなのかな？ ・着物とかかな。 ・この外国人，実習の先生が変装してるんですよ。 	5	○ 日本のことをあまり知らない外国人の日本旅行の手伝いをする。実習生が外国人になりきって、日本の良さを知りたいということを事前にビデオ撮影し、それを流す。
	<p>学習問題 日本の文化にはどのようなものがあるか考えよう。</p>			
展	2 自分が知っている日本の文化を出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・animation. ・ソーラン節も日本の文化だ！ ・sushi！ ・natto. ・ひな祭りって英語でなんて言うの？ ・このアニメの主人公は名前が変わるのか!! 	15	○ 子どもたちが日本の文化には何があるか再認識できるよう、知っていることを出していってもらおう。アメリカにもあるが、日本とは少し違って取り入れられている文化なども、ALTとの対話の中で取り上げていく。次の活動に関わる単語を取り入れる。
	<p>学習課題 3 ヒントクイズを紹介し合えるとよさそうだ。</p>			
開	3 3 ヒントゲームのヒントを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・意味わからない。 ・わたしは花火を紹介したいな。 ・珍しいものを紹介したい！ ・英語で書くのが難しい。 ・先生，日本語で書いてもいいの？ ・みんな何を紹介するかな。 ・ヒント書くのが難しい。 ・分かりづらいヒントを出したいな。 	15	○ 最初にやり方を理解できるよう，ALTと授業者が例を見せる。 ○ 生徒がALTに紹介したい文化を一つ決めて，それを連想させるヒントを3つ用意する。
	4 実際に3ヒントゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝わるかな。 ・全部英語で紹介できそう。 ・他にはどんな文化があるんだろう？ ・文章言うの難しいから，文化だけでもいい？ ・カラオケって日本のものなんだ…。 ・おすしは海外でも食べているよね？ 	10	○ カードを書く際は，できるだけ英語で書けるように机間指導をする。日本語は最終手段として使う。 ○ 先ほど作ったヒントカードを使い，紹介したい文化は何か当てるゲームを行う。グループ活動から全体活動へと広げていく。
				<p>評価：日本の行事や食べ物について，どんなものがあるか認識できる。 評価方法：ワークシート，活動の観察，発言，つぶやき</p>

終末	5本時の追究を振り返る。	・発音が難しい。 ・楽しかった！ ・他に日本の文化ってあるのかな？	5 ○ ALTが知っている日本の文化をゲームの最後に出し、子どもたちに当ててもらおう。ALTが日本に来て実際に驚いたことを題材にしてもらおう。 最後にヒントの用紙に振り返りを書いてもらう。
----	--------------	---	---